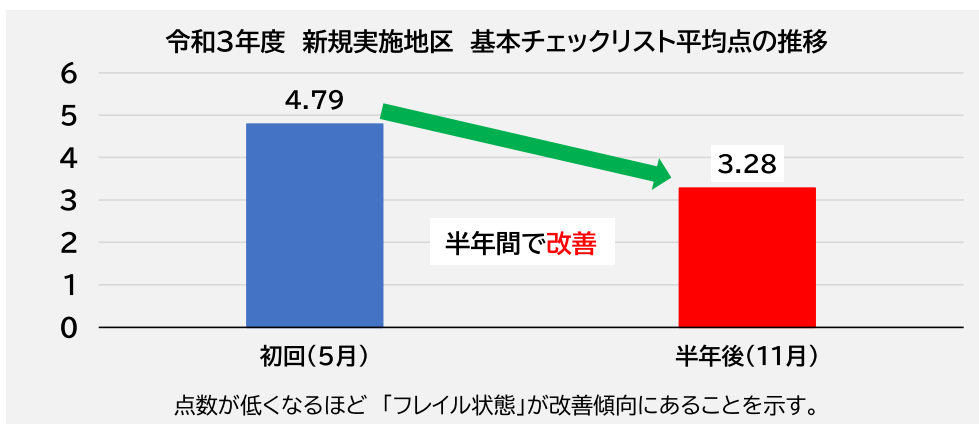
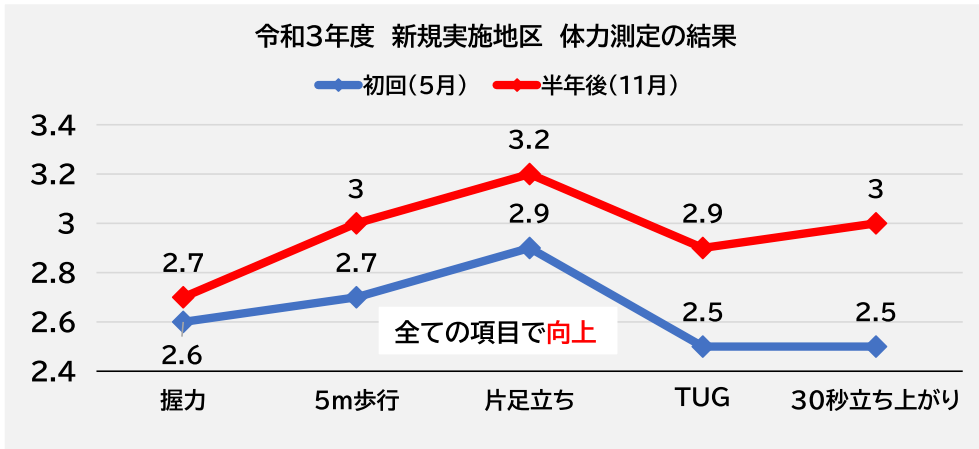


令和3年度 「こけないからだ体操」 効果測定の結果

半年間で全ての項目において「改善」!



改善
結果

新規実施地区において開始時(5月)と半年後(11月)の半年間の成果を明らかにする、効果測定を実施。

身体機能面では、測定値を独自の尺度に当てはめ、得点化したところすべての項目において「改善傾向」がみられた。

生活機能面では、ICTを活用し「基本チェックリスト」の評価を行ったところ、半年間で平均点が減少し、フレイル状態が改善傾向にあることが明らかとなった。

週に1回の「こけないからだ体操」参加による成果と考えられる。

令和3年度 校別地域ケア会議の意見集約

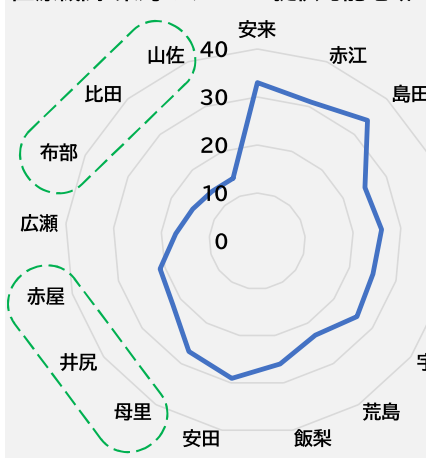
■安来市地域包括支援センターでは医療・介護・福祉関係者と毎年、市内の中学校区別にテーマに沿って地域ケア会議を開催。

今年度は「在宅医療・介護連携」をテーマに、オンラインを活用した分散型での会議を中学校区単位で開催。

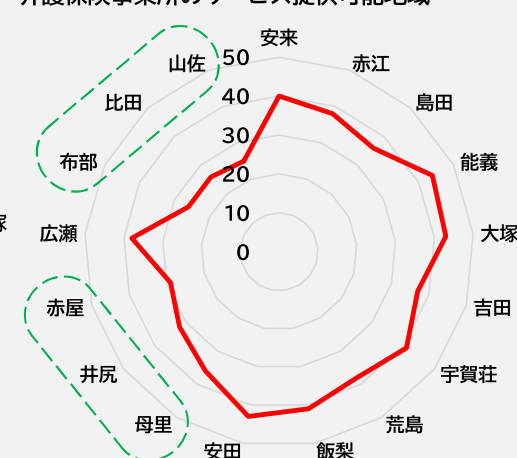


↓当センターにて実施し、今年度の校別地域ケア会議にて報告した「医療介護実態調査」の一部抜粋

医療機関・薬局のサービス提供可能地域



介護保険事業所のサービス提供可能地域



市内南部地域において医療機関・介護保険によるサービスがともに不足していることが分かる。

意見
集約

本年度の「校別地域ケア会議」は、冒頭、当センターから「医療介護実態調査」の結果を踏まえ南部地域の医療介護サービスが相対的に不足している状況等の報告を行い、参加者により多様な意見交換を行った。

その結果、「山間地域における医療介護サービスの提供」「医療介護人材の確保」「法人連携による中山間地域へのサービスの拡充」等の意見が提案された。

特集 令和3年度 総合相談支援事業から見えてくる課題

表1 延べ相談件数の年次推移



センターに寄せられる相談は、年々増加傾向にあり、令和元年度からの増加は特に顕著で、一つのケースに対する支援回数も増加している。

表2 相談件数上位3項目の推移



①「介護保険制度関連」②「認知症関連」③「状況把握」の上位3項目に関する相談は毎年多く寄せられている。

表3 深刻な課題の増加

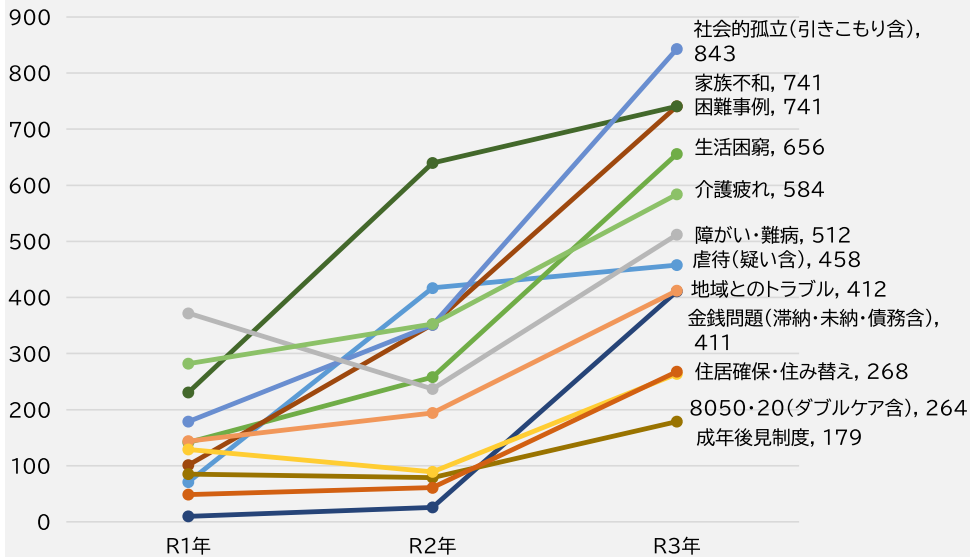
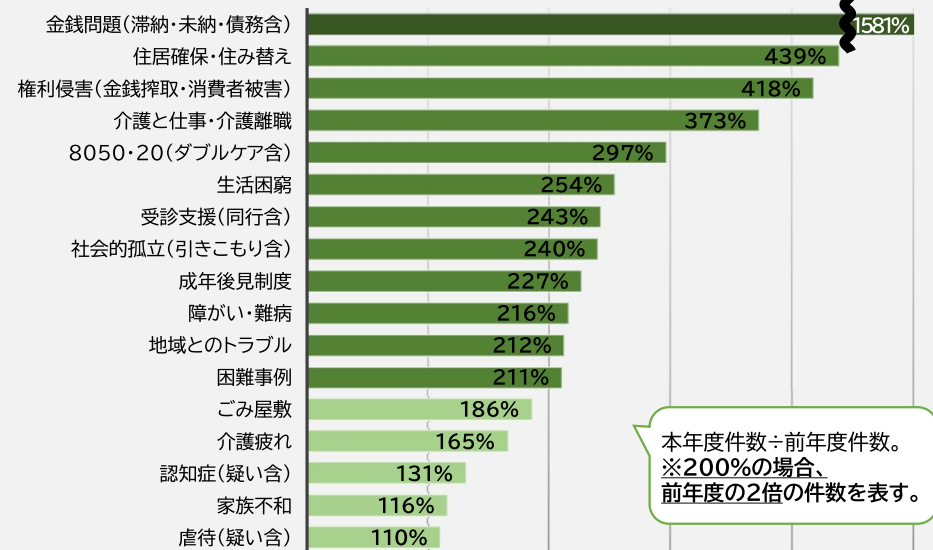


表4 相談項目別 増加率(対R2年比較)



本年度件数÷前年度件数。
※200%の場合、
前年度の2倍の件数を表す。

表3は、「社会的孤立」「家族不和」「生活困窮」といった、社会とのつながりが切れ、深刻な課題を抱えるケースが急増している。表4は、前年度にくらべた本年度の増加率を表している。「金銭問題」が15.8倍増と突出している。その他、課題解決が困難な相談内容も軒並み2倍以上増加している。又、属性や世代に関わらず生活困窮、住居確保、権利侵害、8050・20、障がい・難病など「複合的な課題を抱える世帯」が多くみられ、相談者（世帯）が抱える課題の数は平均で3.9個あった。

今、求められる

「重層的な支援体制」

R2年6月社会福祉法等の改正により、地域住民の複雑化・複合化したニーズに対応するため、属性・世代を問わない包括的な支援体制を整備するため「重層的支援体制整備事業」が創設された。市内には属性・分野ごとに福祉の相談窓口が設置されているが、これらの相談窓口の連携による支援体制は必ずしも十分とは言えない状況がある。

今後、ますます複雑・多様化する福祉課題に対し、行政をはじめ各相談窓口の連携協働によるワンストップの「重層的な支援体制」の仕組みづくりは喫緊の課題となっている。また、これからの「地域共生社会」の実現の向けでも「重層的支援体制整備事業」の導入は効果的な施策の一つといえる。